

【第 115 回対策本部会議】 1 月 17 日

健康福祉部長／1 週間の感染者数は、3 連休後の 11 日、12 日は 80 人台、その後 100 人台が続いている。新年会や同窓会などが感染の起点となり、家族、親族、職場へと広がっている。新年会や同窓会のシーズンは終わったが、今後の広がりを注視していきたい。

クラスターが発生した保育施設の 1 つで、本日新たな陽性者が確認され、計 41 名になった。園児の症状は、数名が発熱したが、大半は軽症、無症状。

現在の病床使用率は 25.3%、重症者はいない。ホテル使用率は 55.7%。自宅療養者は 380 人で、自宅療養支援センターで健康観察を行っている。

現在 138 人が入院し、そのうち中等症 2 が 4 人、中等症 1 が 12 人。中等症とは、肺炎症状があり、症状が軽いほうから中等症 1、中等症 2 と分けている。中等症の病床使用率は 2.9%。軽症、無症状の病床使用率は 22.4%。高齢者や基礎疾患のある人を考慮して、早めに入院してもらっている。例えば、福岡県と比較すると、1 月 12 日の病床使用率は、佐賀県が 22%、福岡県は 6%。療養者数に占める入院者数の割合である入院率は、佐賀県 42%、福岡県 9%。

佐賀県は、リスクのある人には早めの入院対応をしている。県によって入院病床の運用の方法が違うので、病床使用率のみを他県と比較することはできない。

8 月のデルタ株と、現在のオミクロン株の入院状況の違い

8 月 9 日の病床使用率は 25.5%、1 月 16 日は 25.1%とほぼ同じ数値。しかし、8 月の中等症は 13.3%、現在は 2.5%と 5 分の 1 以下。オミクロン株は感染力が強クスピードが早い。医療環境を守るため、病床使用率全体の数値と中等症以上の使用率を確実に抑えていく必要がある。

8 月のデルタ株の際、病床使用率が 50%以上になると医療現場が疲弊した。また、中等症以上の入院が 20%前後になると厳しい状況となった。

オミクロン株の感染スピードを考慮し、病床使用率 35%、中等症病床使用率 10%が警戒を強める目安になる。

県民の皆様には、基本の感染予防対策、正しいマスク着用をお願いする。また、症状がある場合は早めの受診、感染不安がある場合は無料検査を利用してほしい。

坂本副知事／入院基準が全国的に示されていないので、都道府県の判断で行っている。

本県は、当初全員が入院するスタートだった。その後、オミクロン株の傾向がわかり、自宅療養を取り入れた。他県では、最初から自宅療養を取り入れてるところもあり、入院比率が異なる。それは、保健所の考え方か。

医療統括監／そうです。各地が状況に応じ、結果が出るよう対処している。

坂本副知事／本県は、オミクロン株が入ってきた当初、入院者がゼロだったので、無症状でも全員入院し、その後、ホテル療養や自宅療養に移ってもらった。重症者だけが入院していた県とアプローチが違うということか。

医療統括監／本県は、「プロジェクト M」に沿って、症状や状態に応じた場所で、ベストな対応をとっている。

坂本副知事／入院している軽症、無症状者の治療は？

医療統括監／基本的な検温や症状のチェック。

坂本副知事／医療環境を守る観点から、現在入院中の 22%を占める軽症、無症状者は、看護師が常駐しているホテル療養も可能なのでは？

医療統括監／その切り替えも可能です。

坂本副知事／できることは、すでに行っているということですね。再確認すると、医療環境を守るという観点で議論する際、スタッフにかかる負担の程度を優先すべきだということではないか。

医療統括監／そこが一番大事なこと。各病院は、通常医療に影響がでないよう努力している。我々も実情を聞きながらやっている。

坂本副知事／医療現場と調整したうえで、この病床使用率になっていると理解した。率だけの問題ではなく、中身を分析していくことが重要なので、よろしくお願いします。

知事／高齢者の感染も増えたようだ。

健康福祉部長／家族からの感染が原因かと。

知事／5日連続で3桁の感染者数が出ている。家族感染が起きて、子どもや高齢者にも広がっている。

国が戦略的な指針を出していないので、都道府県によってオミクロン株への対処方針に違いが出ている。本県は、これまでのデータの蓄積と分析を踏まえ、県民の皆さんにお伝えする。

病床使用率は、重要な要素。数字だけではなく、中身を分析し、次のオペレーションを考える必要がある。医療機関の負担の程度も含め、総合的に判断しなければならない。

また、オミクロン株の感染スピードが早いという特徴に合わせ、私たちも対応を変えていく必要がある。日々、分析し客観的に対応したい。

多くの県が、まん延防止等重点措置の適用などの動きを見せている。各県が、それぞれの実情を抱え申請し、同じ対応を受けるということ。本県は、現在、飲食がどう影響を及ぼすのか。時短をする意義を議論している。オミクロン株の感染を抑えるために、有効な方法は何かという観点で分析を進めていきたい。

その中で、県民の皆さまにお願いすることは、マスクの着用。濃厚接触者の PCR 検査で、陽性になるのは 1 割程度。感染予防を意識した行動をお願いする。

医療現場、介護、福祉、保健所、教育現場の皆さん、保健所、ワクチン現場の市町や県職員の皆さんに感謝申し上げます。また、県民の皆様方の感染症対策に心から感謝している。

佐賀県は、お互いにエールを送り合える美しい県。チーム佐賀・オール佐賀で、現状を注視し対策を取っていきたい。